

# 中世西語に於ける Si 構文時制の変遷

近 松 洋 男

はじめに

中世スペイン語は12世紀の大叙事詩El Cidから始って、16世紀のスペイン・ルネッサンスの諸作品までの用語であることは、17世紀初頭から始ったスペイン語の大発展、音声上の大変化という節があることから、何人も認めるところであろう。

事実、昭和52年10月15日、日本言語学会第75回大会の講演で論者が明らかにした通り、16世紀初頭のトレス・ナアロの劇にみられる実例をみても、中世スペイン語の諸特徴は、多少の変化はみとめられるものの16世紀まで十分に保存されているのである。

ところが、Si構文(……ならば、……しても)による条件文、譲歩文、事実と反する仮想文についてみると、El Cidとトレス・ナアロの作品とでは随分と相違が認められる。即ち、前者は接続法未来による条件文が60%もあるのに対して、後者は直説法現在による条件文がほぼ60%あり、「事実と反する仮想文を除いてはSi構文は直説法で作る」現代式やり方になっていることに気付いた。つまり中世スペイン語に於てSi構文は音声変化に見られる17世紀初頭の節よりも早く近代化が進行したことになる。

そこでA) 俗ラテン語の例は聖書Biblia Vulgata, ラテン語イソップ物語から取り; B) 中世スペイン語の例は1140年のEl Cid, 1260年頃とされるスペイン語訳聖書, 13世紀のAlfonso XのCrónica General, 1344年のCrónicaから取り; またC) 16世紀初頭のTorres Naharroの劇作品中YmeneáとJacintaをとる。D) 17世紀にロベ・デ・ベガ(～1635年)がCrónicaのSiete Infantesを題材にして書いた劇El Bastardo Mudarraをとり, 1602年のValeraのスペイン語訳聖書, 少し下って1785年のスペイン語訳イソップ物語, そして最後にE) 19世紀のアルゼンチン牧童の田園詩Martin Fierroから例をとって比較し, Si構文時制の歴史的変遷を調べてみた。特に中世スペイン語期をB), C)の二期に分け, 17世紀の音声変化期のD)を考えて, 中世スペイン語に於けるSi構文の発展過程を把握, 検討しようと試みた。

先づ俗ラテン語聖書1260年の西訳聖書と1602年の聖書で比較する。

## 第1章 俗ラテン語からスペイン語へ。

### 1. 接続法によるSi構文の時制の変遷

a) ラテン語接続法現在および完了過去。条件, 譲歩。聖書マルコ伝からSi構文, 全部で30例をとって調べた。

- ex.1. ラテン語聖書マルコ伝3-24, Si regnum in se dividatur, non potest regnum illud stare, (接続法現在), 国内分れ争えば, その国は存在を続け得ず, = 1260年 E si el regno fuere departido en si mismo, non durara aquel regno. 1602年 Si un reino está dividido contra sí mismo, tal reino no puede permanecer.

ラテン語接続法現在による条件文は1260年スペイン語では接続法未来, 1602年では直説法現在になっている。同様の例計3例(3-24, 3-35, 3-27)。

- ex.2. マルコ伝 7-4 (Et a foro) nisi baptizentur, non comedunt. (接続法現在受身, 可能の条件) ' (そして市場から帰った時は,) 水で身を洗わないと食事をしないのである。=1260年 non comen si ante non se bannan. 1602年 Si no se lavan, no comen.

この場合はラテン語接続法現在条件→1260年のスペイン語も1602年のもの、ともに直説法現在条件。1例(7-4のみ)

- ex.3. マルコ伝 8-36 Quid enim proderit homini, si lucretur mundum totum et detrimentum animae suae faciat? (接続法現在譲歩, 接続法現在条件) 'よし全世界をもうけても, 自分の命を失ったら, それが何の役に立つだろうか? =1260年 ¿ que prol terna (=tendrá) si ganare tod el mundo, e diere su alma a perdimiento? 1602年 ¿qué aprovechará al hombre si ganare todo el mundo, y perdiere su alma?

ラテン語接続法現在譲歩, 条件→1260年のスペイン語も1602年のものともに接続法未来譲歩, 条件。各1例。(8-36のみ)

- ex.4. マルコ伝 6-11. et quicumque non receperint vos, nec audierint vos, exeuntes inde, excutite pulverem... (接続法完了過去, 可能の条件) 'ある所で, あなた達を迎えず, あなた達の話を受けないなら, 其処を去って, 塵を払え。=1260年 E si algunos no uos recibieren ni uos escucharen, salit dende, e sagodit el poluo, 1602年 Y si en algún lugar no os recibieren ni os oyeren salid de allí y sacudid el polvo.

ラテン語接続法完了, 可能の条件→1260年のスペイン語も1602年のもの、ともに接続法未来, 条件計2例(6-11, 9-43)

同じく譲歩 2例(13-21, 14-31)

- ex.5. マルコ伝 3-26 Si Satanas consurrexerit in semetipsum,..., et non poterit stare, sed finem habet. (接続法完了過去, 可能の条件) 'だからサタンが自分に対して立ち上…れば, 立てるところか, かえって亡びてしまう。=1260年 E si Sa hanas se leuantare contra si,..., e non puede durar, mas ha fin. 1602年 Y si Satanás se levanta contra sí mismo, no puede permanecer, sino que ha llegado su fin.

ラテン語接続法完了, 可能の条件→1260年のスペイン語では接続法未来, 1602年のものは直説法現在, 条件, 2例(3-26, 9-50)

b) ラテン語接続法未完了過去, 過去完了(事実反)。

- ex.1. マルコ伝 14-35. et orabat ut si fieri posset, transiret ab eo hora. (接続法未完了過去, 現在の事実反対の仮想) '出来れば, この時を自分から遠ざけて下さるようにと祈られた。=1260年 e oro, (echando se en tierra,) que si estar, pudiesse non passasse por el aquella hora. 1602年 y oro que si fuese posible, pasase de él aquella hora.

ラテン語接続法未完了過去, 事実反→1260年のスペイン語も1602年のもの、ともに接続法未完了過去, 事実反。1例(14-35のみ)

- ex.2. マルコ伝 13-20. Et nisi breviasset Dominus dies, non fuisset salva omnis caro. (接続法過去完了, 過去の事実反対の仮想), '主が, その日を

短くして下さらないならば、一人として救われる人はあるまい。' = 1260年 *E si Dios non abreuiasse aquellos dias, non escaparie ninguna carne.* 1602年 *Y si el Señor no hubiese acertado aquellos días, nadie sería salvo.*

ラテン語接続法過去完了, 事実<sup>に反</sup>→1260年のスペイン語接続法未完了過去, 1602年  
 のでは接続法過去完了になっている。1例(13-20のみ)。

以上の各項を図式的にまとめてみると:

表 1.

	ラテン語	1260年西語	1602年西語	例
条件	接現	接未	直現	3-24, 3-25, 3-27
	接現(受身)	直現	直現	7-4
	接現	接未	接未	8-36
	接完了	接未	接未	6-11, 9-43
	接完了	接未	直現	3-26, 9-50
譲歩	接現	接未	接未	8-36
	接完了	接未	接未	13-21, 14-31
事実 <sup>に反</sup>	接, 未完了過去	接, 未完了過去	接, 未完了過去	14-35
	接, 過去完了	接, 未完了過去	接, 過去完了	13-20

## 2. 直説法による Si 構文の時制の変遷

### a) 直説法未来完了による条件文

- ex.1. マルコ伝 5-28 *Quia si vel vestimentum eius tetigero, salva ero.* (直説法未来完了)'(キリストの)服にでも触れたら, 私は救われる,' = 1260年 *Siquiero que tanga la uestidura, sere sana.* 1602年 *Si tocar tan solamente su manto, seré salva.* (tenga は lat. tanger > tanger tocar の接現)

ラテン語直説法未来完了→1260年のスペイン語では接続法現在, 1602年  
 のでは接続法未来。

- ex.2. マルコ伝 10-12. *Et si uxor dimiserit virum suum, et alii nupserit, moechatur.* (直・未来完了, 条件)'妻が夫を捨てて, 他の人に嫁ぐなら, やはり姦通をしたことになる。' = 1260年 *e si la mugier dexare so marido e casare con otro, peca.* 1602年 *Y si la mujer repudia a su marido y se casa con otro, comete adulterio.*

ラテン語直説法未来完了→1260年のスペイン語では接続法未来, 1602年  
 のでは直説法現在, 3例(10-12, 11-31, 11-32)

- ex.3. マルコ伝 11-3, *et si quis vobis dixerit: Quid facitis? dicite, quia Domino necessarius est: ...* (直説法未来完了, 条件)'誰が何を  
 するのかと聞いたら, 主がお入用だ……と答えよ。' = 1260年 *E si uos alguno dixier (= dijere): ¿Que fazedes?, dezit le que el Sennor lo ha mester:*  
 1602年 *Y si alguien os dijere: ¿Por qué hacéis eso? decid que el Señor lo necesita: ....*

ラテン語直説法未来完了→1260年のスペイン語でも1602年のでも、ともに接続法未来、2例(8-3, 11-3)

ほかにラテン語直説法未来→1260年スペイン語で句になり、1602年ので直説法現在になったもの、1例(7-3)

b) 直説法現在による条件文

• ex.1. マルコ伝 9-22. Sed si quid potes, adiuva nos, missertus nostri. (直説法現在, 条件) 'もしもあなたに何かお出来になりますなら, 私達を憐れ<sup>おれ</sup>で, お助け下さい…。' 1260年 Si puedes, ayas de nos mercet e ayuda nos.

1602年 Pero si puedes hacer algo, ten misericordia de nosotros, y ayudanos.

ラテン語直現→1260年のスペイン語も1602年のもともに直現, 6例(1-40, 3-26, 8-24, 9-22, 9-23, 9-35)

• ex.2. マルコ伝 4-23. Si quis habet aures audiendi, audiat. (直現, 条件) '聞く耳を持つ人は聞け' =1260年 Si alguno hy(=hijo) ha que aya oreias(=orejas) de oyr, oya. 1602年 Si alguno tiene oído para oir, oiga.

ラテン語直現→1260年スペイン語接現, 1602年のでは直現, 1例(4-23のみ)

ほかにラテン語直. 現. (Si… scandalizat '罪を犯させるなら')→1260年直. 現. (Si… escandaliza), 1602年接. 未.(Si…te fuere ocasión de caer) が1例(9-47のみ)

またラテン語直. 現.(Si fieri potest '出来れば')→1260年直. 現.(Si seer pueda), 1602年接. 未完了過去(Si fuesse posible)\* 1例(13-22のみ)

上の各項をまとめると:

表 2.

	ラテン語	1260年西語	1602年西語	例
条	直. 未来完了	接 現	接 未	5-28
	直. 未来完了	接 未	直 現	10-12, 11-31, 11-32
	直. 未来完了	接 未	接 未	8-3, 11-3
	直. 未来完了	句	直 現	7-3
件	直 現	直 現	直 現	1-40, 3-26, 8-34, 9-22, 9-23, 9-35
	直 現	接 現	直 現	4-23
	直 現	直 現	接 未	9-47
	直 現	直 現	接未完了過去*	13-22

註1. 上の表の\*印の接続法未完了過去は上の13-22, 1602年の文; Y harán señales y prodigios, para engañar, Si fuese posible, aun a los escogidos. 'しるしや不思議を行ない, 出来れば, 選ばれた人びとさえ, まどわそうとするだろうから。' で見られるように fuese posible の形で事実に対抗の仮想を表わしているものと考えられる, 条件文ではないと判断するべきかと考えられる。

表1, 表2で明らかのように, ラテン語 Si 構文条件及び譲歩では, 時制の如何にかかわ

らず、近代スペイン語ではすべて直説法現在か接続法未来になっていることが分った。

上の聖書のほかに、ラテン語イソップ物語と1785年版スペイン語訳、1924年改訂版スペイン語訳も同様の傾向を示しているので(例文は省略する)、Si構文中の動詞の時制を聖書マルコ伝 30例、イソップ 20例について表にし、それぞれの百分率を出して比較してみた：

表 3.

法	接 続 法											直 説 法					その他	計
	接 未		接 現			接未完了過去				接完了過去		接過完	直・未完了		直 現			
用法別分類	条件	譲歩	条件	可能の条件	譲歩	条件	譲歩	事実	可能の条件	譲歩	事実	に反	条件	条件	譲歩	条件	譲歩	例数
ラテン語 聖書	0	0	4	1	1	0	0	1	4	2	1		7	9	0	0	0	30
			13.3%	3.3%	3.3%			3.3%	13.3%	6.7%	3.3%		23.3%	30%				99.8%
ラテン語 イソップ物語	0	0	0	0	0	0	0	3	6	1	1		2	5	1	0	1	20
								15%	30%	5%	5%		10%	25%	5%		5%	100%
西語聖書 1260年	13	3	2	0	0	0	0	2	0	0	0		0	9	0	0	0	30
	43.3%		6.7%					6.7%						30%				100%
西語聖書 1602年	7	3	0	0	0	1*	0	1	0	0	1		0	17	0	0	0	30
	23.3%	10%	10%			3.3%		3.3%			3.3%			57.7%				99.9%
西語 イソップ物語 1785年	9	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1		0	4	0	0	1	20
	45%	5%	5%					15%			5%			20%			5%	100%
西語 イソップ物語 1924年	6	1	1	0	0	0	0	4	0	0	1		2	4	0	0	1	20
	30%	5%	5%					20%			5%		10%	20%			5%	100%

\*印については註1参照。

註2. 西語訳イソップ物語で接現1例、直未完了2例の条文があることが上の表で明らかにされているが、恐らく cultismo のせいであるかと思われる。

Si 構文(条件, 譲歩)の時制についてはいろいろの経路はあったが、大勢としては

接・現在  
 接・未完了過去  
 ラテン語 { 接・完了過去 } → スペイン語 { または }  
 直・未完了  
 直・現在  
 直・完了過去  
 直接法現在  
 接続法未来

という流れを取ったことが明確になった。

## 第2章 中世スペイン語から近代スペイン語へ。

### 1. 12世紀から14世紀まで。

a) スペイン最古最大の叙事詩 El Cid(1140年) 1033行までの20例についてしらべてみた。

• ex.1. L.251. Si yo algún día visquier(=viviere), seervos han (=vos serán) doblados. (接未, 条件) 'もし俺が幾日かでも長生きするとすれば、お前は2倍も長生きするはずだ。'

接未, 条件 12 例 (L.181, L.223, L.251, L.258, L.451, L.492, L.673, L.687, L.688, L.825, L.832, L.1025) 60 %

• ex.2. L.230. Si el rey me lo (=castigar al Çid) quisiere tomar, a mi non m' inecal(=importa), (接・未, 讓歩) 'たとえ王様が私に罰を加えたいお気持をお持ちになられるとしても, 私にはどうでもよいのです。'

接未, 讓歩は1例(L.230のみ)5%

• ex.3. L.80. Si yo vibo, doblar vos he(=vos doblaré) la soldada. (直現, 条件) 'もし俺が生きておれば, お前達の祿を二倍にしてやろう。'

直現, 条件は5例(L.34, L.75, L.80, L.632, L.1033b)25%

• ex.4. L.309. Si después del plazo en su tierral pudies(=pudiese) tomar, por oro nin por plata non podrie(=podría) escapar. (接未完了過去, 事実に反) 期限が過ぎて彼が捕まるということが起ろうものなら, 金を積んでも銀を積んでも, 彼は逃れられはしないよ。'

接, 未完了過去, (事実に反)は2例(L.20, L.309)10%

Si 構文(条件, 讓歩)については接未と直現しかなく, ラテン語 Si 構文にくらべて極めて簡潔になっていることが分った。

b) スペイン最大最古の散文 Crónica General (十三世紀)

この年代記は賢王アルフォンソ十世(1221~1284)の命令でまとめられたものである。最初の16頁から20例をとって調べてみた。

• ex.1. Pág.215, L.11. et si assi fuere, non nos escape a uida,... (接未, 条件) 'ところで, そんな事情であるならば, ……'

接未, 条件は9例(Pág.214 L.1, Pág.215 L.7, L.9, L.11, Pág.218 L.8, Pág.219 L.19, Pág.221 L.11, Pág.222 L.24, Pág.225 L.7)45%

• ex.2. Pág.210, L.17. Si las duennas de mi fablan, fazen derecho. (直・現, 条件) 'もしも貴婦人方が私のことを話されるなら, ……'

直・現, 条件は2例(Pág.210 L.17, Pág.223 L.2)

• ex.3. Pág.219. L.2. enuio vos por ende a so padre que uos quel fagades descabeçar, si bien me queredes(=queréis). (直・現, 讓歩) たとえ, あなたが私を好いてくれても, ……'

直現, 讓歩は1例(Pág.219, L.2のみ)

• ex.4. Pág.215. L.17. et si uos alguna cosa fizo que non deuiesse emendar uos lo a,……, consejouos quel non fagades ningun mal.(直過, 条件) 'そしてもしも彼があなたに対して何か事をしでかして, しかもあなたのために修正してくれそうにもない場合には, 彼に如何なる害も加えないよう忠告する。'

直・過・条件は1例(Pág.215, L.17のみ)5%

• ex.5. Pág.214. L.22. Si a algun de vos contentesciesse(=aconteciera)esto que a mi, yo non querria uiuir un dia mas fasta quel non uengasse. (接未完了過去, 事実に反) 'もしこの事が私でなくて, あなた方のうちの誰かに起るとするならば, 私は仇討がかなうまでは一日たりとも生きていたくない。'

接未完了過去, 事実に反, 7例(Pág.212 L.5, Pág.214 L.22, Pág.221 L.16,

Pág. 223 L. 8, L. 25, Pág. 224 L. 3, Pág. 226 L. 3) 35%

c) 1344 年の Crónica

最初の 13 頁に出てくる 22 例について調べてみた。

• ex. 1. Pág. 265 L. 13. Tornadvos para Salas si quisierdes. (接未, 丁寧, 条件) およろしければ, サラスに向ってお帰り下さい。

接未, 丁寧, 条件. 8例 (Pág. 252 L. 25, Pág. 257 L. 7, L. 8, Pág. 260 L. 4, L. 23, Pág. 261 L. 16, Pág. 265 L. 4, L. 13) 36.4%

• ex. 2. Pág. 265, L. 9. don Nuño Salido, ..., muerte buscades si ouiese (=hubiese) quien vos la dar. (接・未完了過去, 丁寧な表現, 条件) それを贈与するべき方がおありなら, あなたは死を願うわけだ。

接・未完了過去, 丁寧な表現, 条件. 3例 (Pág. 255 L. 1, L. 2, Pág. 265 L. 9) 13.6%

• ex. 3. Pág. 254 L. 15. Si lo el Conde Garci Ferrandes non partiera, que los fiso (=hizo) perdonar para siempre. (接・未完了過去, 事実反, 譲歩) 'たとえガルシ, フェランデス伯爵にそれを手離すお気持ちが無いにしても, 伯爵は永遠に彼等を免赦なさったのである。'

接・未完了過去, 事実反, 譲歩. 1例 (Pág. 254 L. 15 のみ) 4.5%

• ex. 4. Pág. 265 L. 1. Si esta rrisca pasades yo non yre conbusco adelante mas. (直・現, 条件) 'お前達がこの岩を越せば, 私は疲れはてて, これ以上前進出来そうにない。'

直・現, 条件, 3例 (Pág. 252 L. 8, Pág. 264 L. 12, Pág. 265 L. 1) 13.6%

• ex. 5. Pág. 264 L. 14, Por las aues non curase nada, ca non fasia (=hacia) a ellos aquello, si non (fasia) al mayor dela hueste con que (=quien) todos yuan (iban). (直・過・条件) '鳥(による前兆)なんか, 何の役に立とうか, だって, 自分達が行を共にしている軍勢の大部分に, その事が何の禍いもなさない限りは, 自分達にだって何の害もないんだから。'

直未完了・過去, 条件. 1例 (Pág. 264 L. 14 のみ)

• ex. 6. Pág. 260 L. 4. Yo gradesçer vos lo ya mucho, si.... encomendar me yades (=me encomendaríais) ael mucho e mostrar le yades (=le mostraríais) la grant cosa... (可能法, 丁寧, 条件)

'私をあなたの方にあづけて, あなたの方に大事な事を教えてあげて下されば, 私はただもう, あなた様に感謝するばかりです。'

可能法, 丁寧, 条件. 2例 (Pág. 260 L. 4 中の二つの可能法の動詞) 9.1%

註 3. 可能法の語尾 ya (=ia) が me や le のために不完詞から離されていることに注意。

ほかに事実反の仮想をあらわす接・未完了過去の例が 4 例ある (Pág. 256 L. 22, Pág. 257 L. 15, Pág. 265 L. 7, L. 10) 18.2%

12 世紀から 14 世紀までの三つの重要な大古典作品, El Cid 1140 年, Crónica General (13 世紀), Crónica de 1344 を較べてみると次のような表が出来る:

表 4.

時 制	接 続 法					直 説 法			可能法	計
	接 未		接 未 完 了 過 去			直 現		直 過		
用 法	条件	譲歩	丁寧な 条件	譲歩	事実 に反	条件	譲歩	条 件	丁寧な 条件	例数 %
1140年 El Cid	12 60%	1 5%	0	0	2 10%	5 25%	0	0	0	20 100%
13世紀 Crónica general	9 45%	0	0	0	7 35%	2 10%	1 5%	1 単純過 去	0	20 100%
1344年 Crónica	8 36.4%	0	3 13.6%	1 4.5%	4 18.2%	3 13.6%	0	1 未完過 去	2 9.1%	22 99.9%

12世紀 El Cid で条件、譲歩が接未と直現の2種の時制にまとまったのが、時代が下ると共に接未が減少して行く一方で、接・未完了過去や可能法による丁寧な条件文があらわれて来ている。

## 2. 16世紀初頭から終末にかけて

a) 1530年頃に作られた Torres Naharro の Jacinta (錦百合の君物語) 前口上から四幕153行目までに出てくる Si 構文 20例についてしらべてみる。

• ex.1. Ⅲ幕, L.140. pues juro a la percondencia / que os majasse yo mejor / si no me fuese concencia (=conciencia). (接・未完了過去, 譲歩) 'と申しますのは、私が本心で言ったのではないとしても、あなたを大変困らせたことは先程からの口論につけても事実だと認めます。'

接・未完了過去, 譲歩. 1例(Ⅲ.140のみ) 5%

• ex.2. I幕, L.127. Yo te seré buen amigo / si me cuentas de tu grado /... (直・現, 条件) '進んで私にお話し下されば/私はあなたのよい味方になりますよ。'

直現・条件. 12例 (Intr.12, 139, I.49, 53, 83, 110, 127, 165, Ⅲ.42, 160, 185, IV.153) 60%

• ex.3. I.218. Si tengo algún saber, / primero hu(=fue) bachiller / que pastor de las montañas. (直・現, 譲歩) '私めが何か知識を持っているとしましても、もと得業師で/山岳地帯の牧童であったにすぎません。'

直現, 譲歩. 3例 (Intr.3, I.218, Ⅲ.53) 15%

• ex.4. Ⅲ.136. que ya te ouiera(=hubiera) hundido / si pensase sermeonor. (接・未完了過去, 事実反) '俺が自分の名誉を大事にしようと思うならば/もうとっくにお前をやっつけていただろうからなあ。'

接・未完了過去, 事実反. 4例 (I.17, II.27, Ⅲ.136, IV.57) 20%

ここでIV.57が古いスペイン語、むしろラテン語の生き残り構文を見せてくれる。

Avéisme hecho acordar /... / que me deuiera ahorcar /...; / que si yo quisiera allí / verificar mi querilla. (Lat. quasi > que si 'como si')



'まるで、私が自分の不平のまじめさを／証明したがっているかのように／私が首つりするべきだと考えたことを／貴殿は私に思い出させたんだ。'

中世前期にあんなにも沢山あった接・未による条件文が Jacinta では全然なくなっており、一方で直現による条件文（60%）譲歩文（15%）が激増している。

b) 同作家同時代の劇 Ymenea（劇 Jacinta の少し前に作られた）と 16 世紀末の Lope de Vega の El Bastardo Mudarra をとり上げて同様の調査をしてみると次のような表が出来た：

表 5.

時 制	接 続 法			直 説 法						計
	接未	接未完了過去		直 未	直 現	直過	直完了過去			
用 法	条件	譲歩	事実に反	条件	譲歩	条件	譲歩	条件	条 件	例 数 %
Ymenea	1 5%	0	0	1 5%	1 5%	13 65%	2 10%	1 5%	1 5%	20 100%
Jacinta	0	1 5%	4 20%	0	0	12 60%	3 15%	0	0	20 100%
Lepe の El Bastardo Mudarra	1 5.6%	0	2 11.0%	0	0	14 77.8%	0	1 5.6%	0	18 100%

中世前期で接未による Si 構文が減少傾向を示していたが、16 世紀に入ると接未による Si 構文は殆どなくなり、中世中期で直説法による Si 構文がふえると共に、直現ばかりでなく他の時制がふえるきざしが見えていたが 16 世紀になると、その方向が固まり、接続法は譲歩の一例をのぞいては事実に対抗の仮想をあらわすためにのみ用いられるようになって来る。

### 3. 現代ではどうか？

19 世紀のアルゼンチン牧童詩 Martin Fierro をとり上げ、同じ手法で Si 構文を分類してみた。

表 6.

時 制	直 説 法						計
	直 現		直・未完了過去	直完了過去	直過去完了		
用 法	条 件	譲 歩	条 件	条 件	条 件	例 数 %	
Martin Fierro	9 45%	3 15%	6(うち4は感嘆) 30%*	1 5%	1 5%	20 100%	

註 \*の感嘆文というのは次の通りである。

Ⅲ.119. ¡Barajo!……Si nos trataban / como se trata a malevos.  
'おやまあ……悪人を扱うように／我々が扱われたなんて。 4例(Ⅱ.67, Ⅲ.119, 229, 287.)

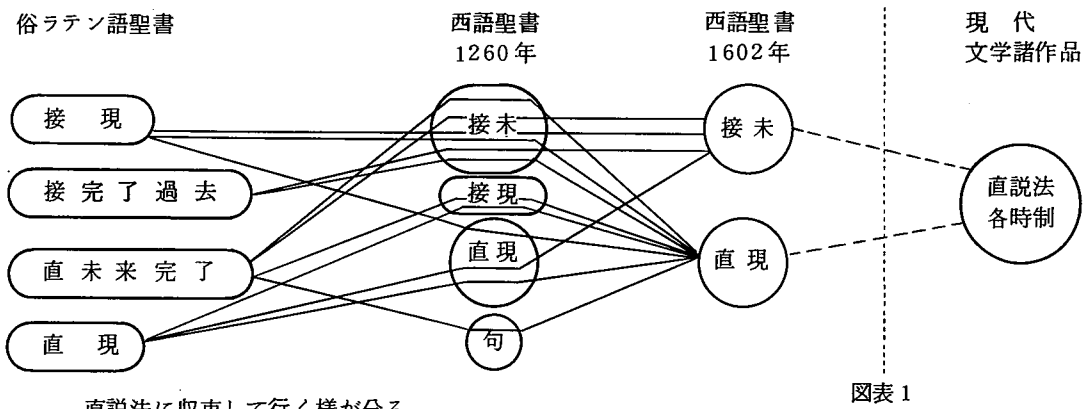
なお、表 5 のサンプルを下に明示する：

直現・条件 9例(Ⅰ.50, 64, Ⅱ.145, 146, 171, Ⅲ.140, 299, 301, 311.)

直現, 譲歩 3例(Ⅲ.143, 215, 219,)  
 直未完了過去, 条件 2例(Ⅲ.128, 185,)  
 直完了過去 1例(Ⅳ.137)  
 直過去完了 1例(Ⅳ.159)

もはや接未はなくなり, そのかわり直説法による Si 構文は変化に富んで来ている。

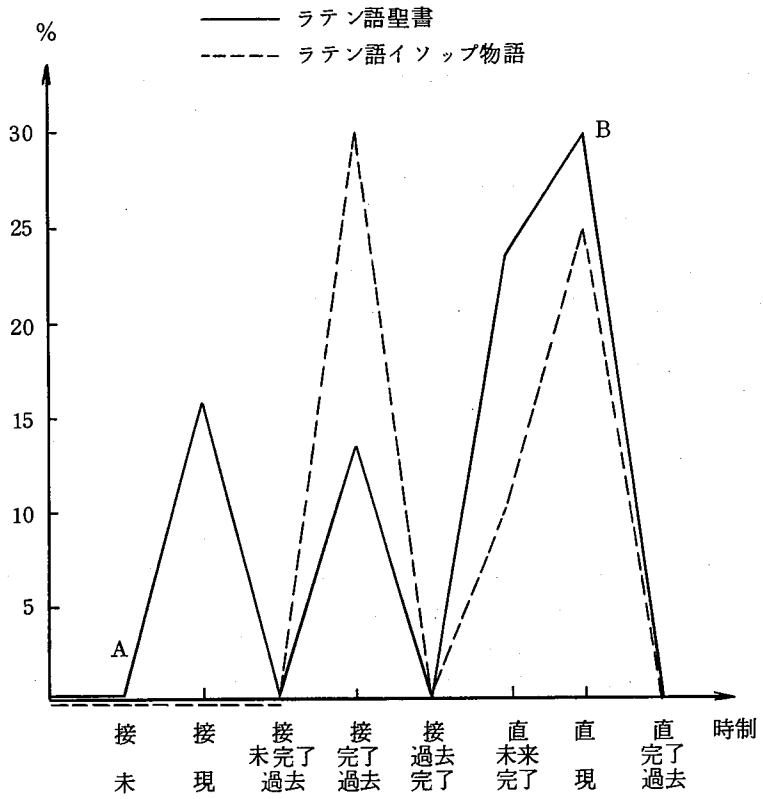
さて以上をまとめてみると, 表1, 表2より条件文時制には次のような変化の流れがみられる。(聖書による。



直説法に収束して行く様分かる。

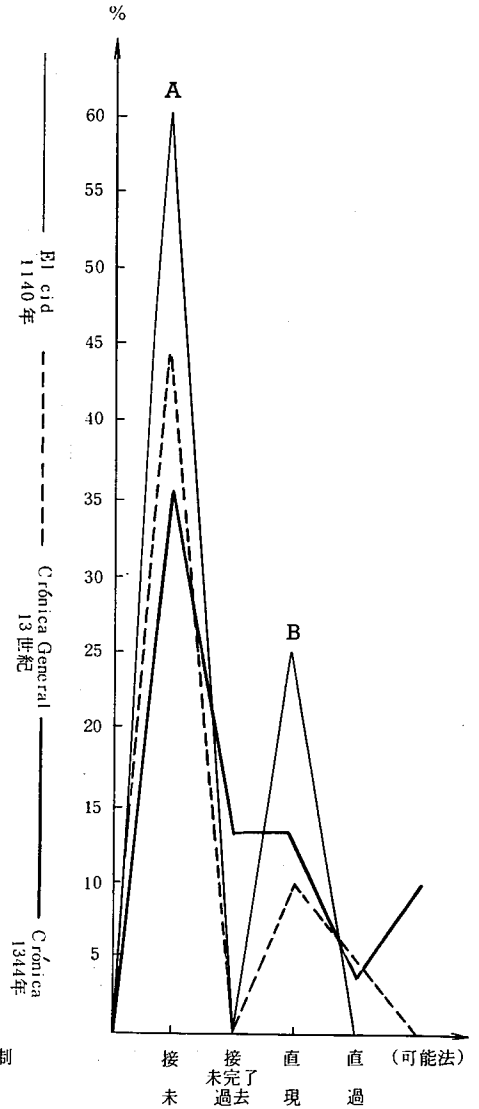
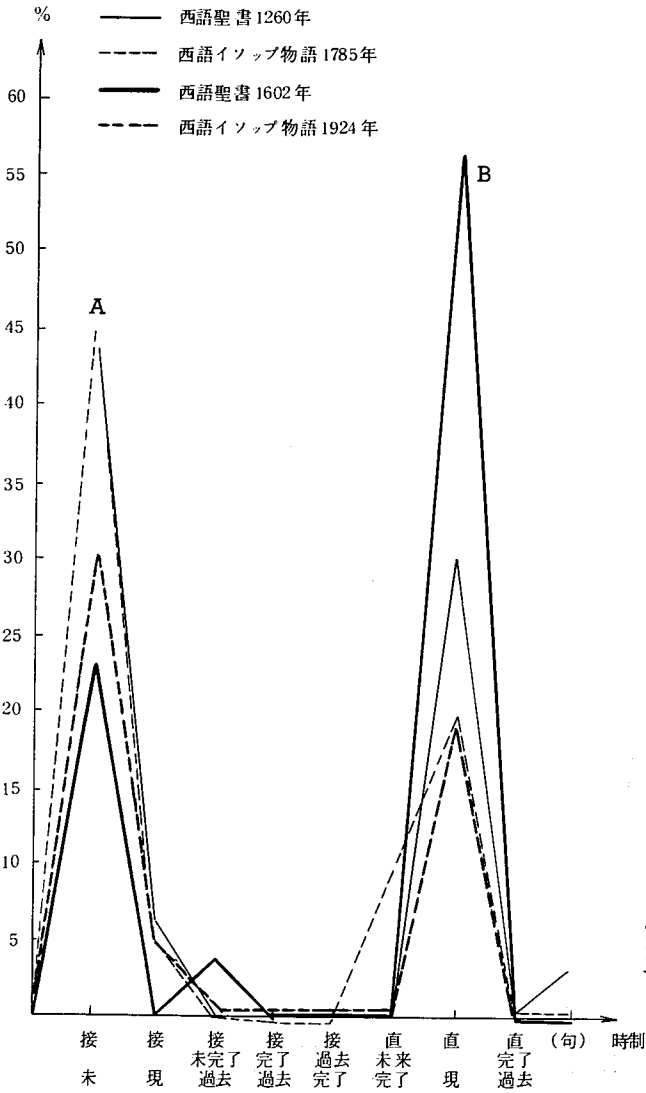
第3表から第6表に到るまで, つまり俗ラテン語から現代俗スペイン語にかわって行く過程で, 条件文時制の変遷をグラフにしてみる。図表1でみる通り, 中世スペイン語(前期)では圧倒的に接未, ついで多いのが直現であるが, それが中世スペイン語時代末期になると圧倒的に直現, ついで多いのが接未となって逆転し, 現代俗スペイン語では接未が消滅するので, 各グラフで接未のところにA, 直現のところにBと記号を付し, 両者の変遷の様をグラフでみる。

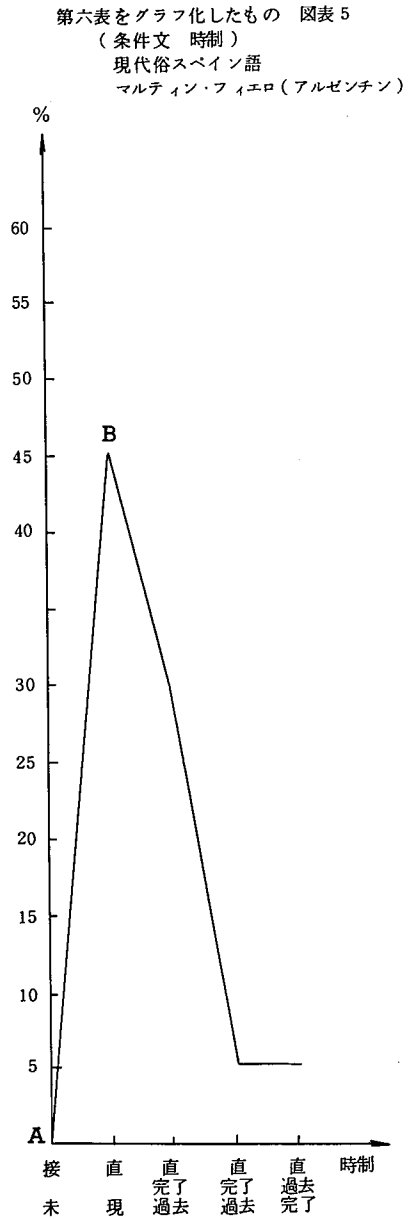
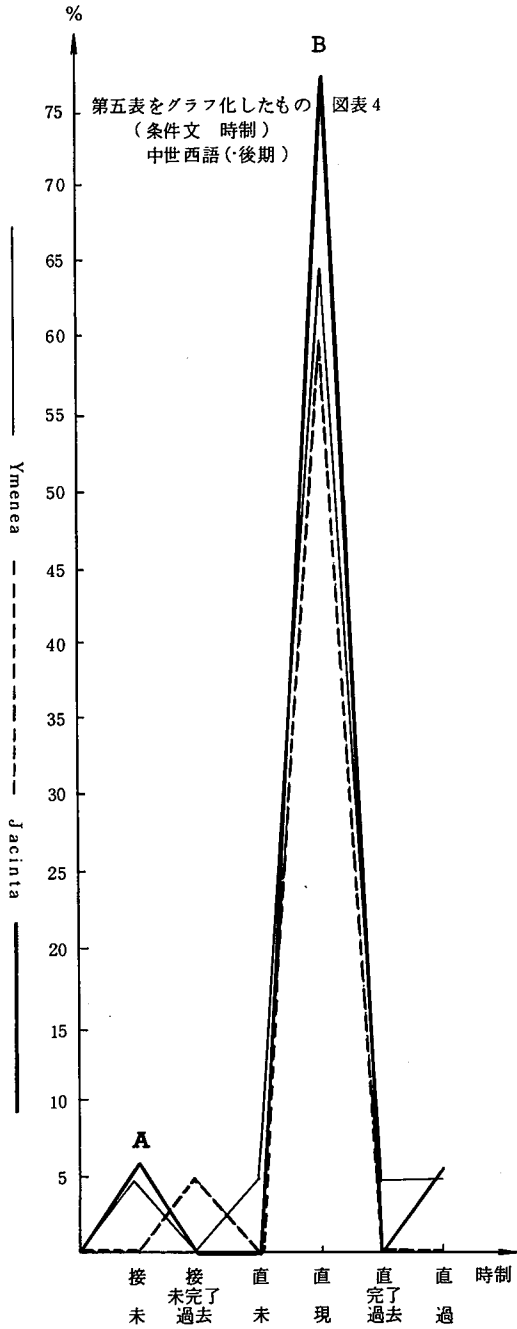
第三表をグラフ化したもの 図表2-1  
 (条件文 時制)  
 俗 ラテン語



第三表をグラフ化したもの 図表2-2  
 (条件文 時制)  
 スペイン語聖書, イソップ物語

第四表をグラフ化したもの 図表3  
 (条件文 時制)  
 中世西語(前期)





#### 4. 本テーマに関する Menéndez Pidal の意見

本テーマに関して、スペイン語史、スペイン文法の諸種の参考書をしらべてみたのであるが、上記の時制変遷について論及しているものは少く、スペイン語史の泰斗、Menéndez Pidal が彼の大著 *Orígenes del Español* の 366 頁、§76 *Uso de los modos, tiempos y voces* の中で必しも条件文時制についてではないのであるが、次のような意見をのべている。

この問題では特に意見を申し述べたくはないのだが、接続法と直説法の使用の不確定ということを書いてみたい。Priebisch (*Zeit, für rom. Phil.*, XIX, 20) は *Glosas Silenses* では接続法未来を異常に選好していることに気付いている：つまり

1) 俗ラテン語原文が自然現象をあらわす直説法である場合に、中世スペイン語註釈文では接続法未来となっている。(引用文中の算用数字は *Glosas Silenses* の行数を示している *Origenes* の 14 頁参照)

*Si mulier per poculum*<sup>68</sup> [=註釈 *ueuetura de la ierba*=*bebedizo de la hierba*] *aut perqualibet autem occiderit filium uel qui denati sunt* (直説法現在) [=註釈 *elos qui naiserenso* (接続法未来)=*los que se nacieren*],<sup>69</sup> *XV annis penteat.*

(訳) もし女が草からとった毒汁によるか、或は何かほかの方法で、息子、つまり、生れて来る者達を殺すなら、十五年の刑。

2) 直説法現在の代りに接続法未来を用いている：

*Si mulier in monstruoso tempore comunicat* (直説法現在) 18 [=註釈 *Sine mundo intretieret* (接続法未来)], *XXX diebus peniteat.*

(訳) もし女が異様な姿で(註釈：化粧しないで)身をまかすならば、30日の刑。

*glosas* 18 では *comunicat* なる直説法現在形を *intretieret* なる接続法未来形におきかえている。Menéndez Pidal は *intretieret* なる語がどういう意味かよく分らないと言っている。上記 Priebisch は *glosas* 18 のこの文のすぐ後にくる *Si intrat in ecclesiam* の *intrat* と混同して筆耕生が写し損いしたらしいとしているが、Pidal は註釈者が多分 *communicaret* なる接続法未来形にしたかったのではないかとほのめかしている。

3) 接続法現在の代りに接続法未来を用いている：

*Si quis patrem aut matrem infamaberit, quanto tempore in impietate steterit tanto post satisfactionem* [=註釈 *pos que penitieret* (接続法未来), 現代語なら '*desde que haga penitencia* (接続法現在)'] 44 *peniteat.*

(訳) もし誰かが父または母を中傷したとすると、その罪の償いをした後、不孝を犯した期間と同じだけの刑を受ける。

4) 接続法完了過去の代りに接続法未来を用いている：

*Glosas* の例ではなくて 1097 年の *errión* よりの引用で

……*de criato quod ego griare* [= *haya criado*],

(訳) 私が世話をした召し使いの……

なお、Menéndez Pidalは次の場合をあげている。

5) 接続法現在の代りに直接法現在を用いた例：

やはりGlosas Silenseから例をとっている。

Si quis fornicatur sicut sodomite fecerunt, si epis opuscest, XX annis peniteat; presbiter, XU.; diaconus, XII; postquam nunquam 126 accedant (接続法現在) 127〔註釈 alquantre non aplekan (直説法現在) = nunca se aplican'〕 ad ordinem sacerdotii.

(訳) もし誰かが、ソドマの人々がやったように、放蕩生活におぼれるとすれば、それが司教であれば20年の刑、司祭なら15年、助祭なら12年の刑に処し、以後は二度と僧団に配属されることはない。

もう1例同じglosas Sil. 241行目で上と同様の nec... accedat〔註釈 non aplekat〕なる例を上げている。

## 5. 結び

この小論文では実証的に俗ラテン語時代から中世スペイン語時代を経て近代に到るまでの Si 構文時制の変遷をみて来たのであるが、第4節にのべた Menéndez Pidal の分析と比較してみるとなかなか面白い。

Menéndez Pidal は俗ラテン語でみられる多様な時制が中世スペイン語では接続法未来形に収斂していることを認めている〔第4節1), 2), 3), 4) 参照〕。

本小論文での分析結果では図表1で明示してある通り、俗ラテン語聖書の接現、接完了過去、直未来完了から1260年聖書ではすべて接末に収斂している。

- i) Menéndez Pidalの分析では直未来完了から接末へのうつりかわりは見出せない。
- ii) 第4節 Menéndez Pidal の分析, 1), 2), 直現から接末への動きについては、本小論文図表1で明らかのように、1602年聖書ではじめて1例が見出される。
- iii) Pidal の分析 5) の「接現から直現」については、図表1で対照すると、1例だけ見られる。

いづれにしても Menéndez Pidal の意見では中世スペイン語 Si 構文の接末〔1), 2), 3), 4)〕と直現〔5) 参照〕への収斂を断言してはいないが、その実例を列挙して認めている。本小論文図表1では1602年聖書の段階がそれを示しているが、中世スペイン語の特徴を一層よく表わしていると思われる1260年聖書では図表1でみるように未だそれほど整然と整理されていない。

中世スペイン語 Si 構文で、かくも一般的になった接続法未来が近世以降消滅に向ったことは常識であって、あらゆる文法書、語史の参考書では当然のこととしている。図表1の右方にみられる点線で示した変化方向は別に何らの新しい所説を含んだものでもない。

図表2-2, 3, 4, 5では Si 構文内の接末の度数をA, 直現のそれをBで表わしている。ところで俗ラテン語時代には Si 構文内に接末は出ないのであるが(図表2-1参照), 中世前期西語の出現とともに高頻度であらわれた接末が中世後期西語になると漸減する様がA, つまり接末の頻度と、Bつまり直現の頻度と、その位置をとりかえていることで歴然と見られる(図表3, 4参照)。それが現代俗スペイン語になると図表5で見られるように、もはやAは零に帰し、B, 直現が最高度の頻出度を誇っている。

参 考 文 献

Biblia Vulgata (Biblioteca de Autores Cristianos, Madrid) Santa Biblia ( Sociedades Bíblicas Unidas, España) 新約聖書(ドン・ボスコ社)

El Evangelio de San Mateo (13世紀西語聖書), (Real Academia Española, Madrid, 1962.)

El Nuevo Testamento, según el Manuscrito Escorialense I.-I-6(versión castellana de hacia 1260. Real Academia Española, Madrid, 1970)

Fábulas Esópicas (Bosch, Casa Editorial, Barcelona) La Leyenda de Los Infantes de Lara (Espasa-Calpe. S.A. España)

Propalladia de Torres Naharro (University of Pennsylvania Press, Philadelphia 4, U.S.A)

Martín Fierro (Editorial Ciordia, S.R.L. Belgrano. B.A. Argentina)

Orígenes del Español (Espasa-Calpe, S.A. Madrid)

各種ラテン語, スペイン語辞典。